

賀 正

「小さな自治の
芽生えを育てよう」

平成十九年 元旦

積丹町長 益子 清美



町民の皆さん、明けましてお

めでとうございます。

平成19年の新しい年をお元氣

でお迎えのことと心からお喜び
を申し上げます。

昨年を顧みますと、台風に次
ぐ大雪と2年続きの自然の猛威
に遭遇し、そして厳しい行財政
改革の嵐の中、町民の皆さんに
は、多くの困難に耐え困難を乗
り越えるためのお力添えをいた

だきました。

また、少年野球大会、小学生

統計コンクール、消防救助訓練

大会などでの快挙や、町の明る
さを願うてのさまざまなイベン

トの催し、ごみの分別や一団体
一ボランティア運動の輪の推進
などに、郷土を愛する小さな自
治の芽生えを感じ、私自身も勇
気づけられた一年でありました。
そうした町民の皆さんの元氣

な活躍と懸命の努力の一つひと

つの姿に、心から感謝とお礼を

申し上げますと思います。

新しい年は、夕張市の財政再

建問題を契機に、地方自治体の

新たな財政規律の確立と地方交
付税の削減をめざし、国の更な

る地方行財政改革の強化が求め
られており、小規模な町村にと
って一層の深刻な財政難時代の

到来が心配されております。

私は、そうした厳しい時代の

転換期であるからこそ、町民の

皆さんと行政が、町の多くの課

題の共通理解を深め、相互の信

頼関係を大切にしながら、一緒

に知恵を出し合い、厳しい環境

下でのまちづくりに全力を尽く

してまいりたいと思います。

開かれた行政の推進と行政の

弛まぬ改革への努力が、将来の

まちづくりへの夢をつなぐ原動

力として確かな歩みを続けられ

ますように、町民の皆さんのご

理解とご協力を心からお願い申

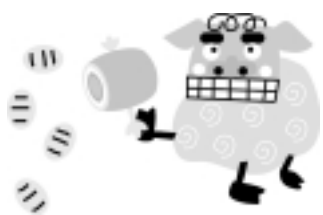
し上げます。

希望に輝く新春を迎え、町民

の皆さんのご多幸とご健勝を心

から祈念し、念頭のご挨拶とい

たします。



今年は「亥年」

亥は、十二支の中で第12番
目、最後の干支で、時間にす
ると亥の刻とは午後10時を中
心とする約2時間、方角にす
ると北西よりやや北よりにな
ります。

亥(猪)は、鼻が非常に敏感
で神経質な動物であり、世界
には、30種ほどで種類もさま
ざま。日本では、本州・四
国・九州などの広い範囲に分
布しているものと奄美大島や
沖縄本島などに生息している
琉球イノシシと呼ばれる小型
のものがいます。

その独特の体形から、太い
短い首を意味する「猪首」や
長く発達した鼻先の円盤状の
鼻鏡と呼ばれる形が似ている
「猪口」、また、もつばら向こ
う見ずの勇猛ぶりが強調され
る「猪突猛進」「猪武者」など、
猪にまつわることわざ・成語
も多くあります。

めまぐるしい社会のスピー
ドに流され突っ走ることなく
身の丈にあったしつかりと見
極める力を身につけたいもの
ですね。

※町内の亥年生まれの方々は、
265人で内訳は次のとおり
です。

明治44年生	96歳	6人
大正12年生	84歳	33人
昭和10年生	72歳	66人
昭和22年生	60歳	57人
昭和34年生	48歳	37人
昭和46年生	36歳	31人
昭和58年生	24歳	15人
平成7年生	12歳	20人

※平成18年12月20日現在

迎春

「ピンチをチャンスに」

ー 積丹に生きる

誇りをもってー

平成十九年 元旦

積丹町議会議長 岩本 幹兒



なじみの一休禪師も「幸せがほしかったら、今の苦しみを不平としてはならない。喜んで苦しみなさい。そうしたら、のちの安樂は必定である。」と言っております。

みんなでその壁を乗り越えるべく頑張つてまいりましょう。その壁が高ければ、高いほど、その先に見える景色は、世界は素晴らしいものになるはずで、我々議員もみんなで知恵を出し合い、懸命に頑張つてまいります。町民の皆様の更なる温かいご支援とご協力を賜りますように切にお願い申し上げます。

町民の皆様のご健康とご多幸、更には平成19年が積丹町にとつて着実なる発展の年となることをご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

あるとも言われております。今こそ、町民の英知と力を結集してピンチをチャンスにかえるべき時です。小規模町村は小規模町村なりに、高齢者が多い町は高齢者が多い町なりに、その良さがあるはずです。

積丹のもつ恵まれた自然と景観、食材、札幌圏への近距離内などの優位性を今一度見直してみること必要かと思っております。

また、テレビアニメ漫画でお

積丹町の皆様、新年あけましておめでとうございます。
平成19年の新春を皆様と共に迎えできましたことを心からお喜び申し上げます。常日頃、皆様の温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

新しい年を迎えましたが、北海道の経済情勢は依然として厳しい状況が続いており、景気回復、好景気と言われておりますが、どこが景気が良いのか、ま

ったく私たちには実感がなく、更には地域格差、教育格差、医療格差など格差問題も大きくクローズアップされてきております。弱者救済、相互扶助の精神はどこへ行ってしまったのでしょうか。

積丹町は、国からの地方交付税の削減などという圧力でピンチ、ピンチの連続です。国からの圧力という大きな壁が立ちだかつております。しかし、ピンチとチャンスは隣り合わせに



亥年の出来事

【昭和34年】

- ・第2代積丹町長に、浅野目浦吉氏就任
- ・メートル法が施行

- ・IOC総会で、1964年東京オリンピック開催決定

【昭和46年】

- ・海底探勝船第一神威丸（グラスボート）が就航
- ・積丹町学校給食センターが完成し、給食を開始
- ・沖縄返還協定調印式

【昭和58年】

- ・広域種苗生産施設（うに種苗生産施設）を建設
- ・国保診療所、農林漁業者センターを建設
- ・東京デイズニールランド開園
- ・日本海中部地震発生（震度5。死者104人）
- ・三宅島大噴火（住宅埋没・焼失400棟）

【平成7年】

- ・国道229号「西の河原トネル」貫通
- ・積丹町総合文化センター着工
- ・阪神・淡路大震災発生（震度7。死者6,436人）
- ・地下鉄サリン事件発生（死者12人。重軽傷者5,510人）